

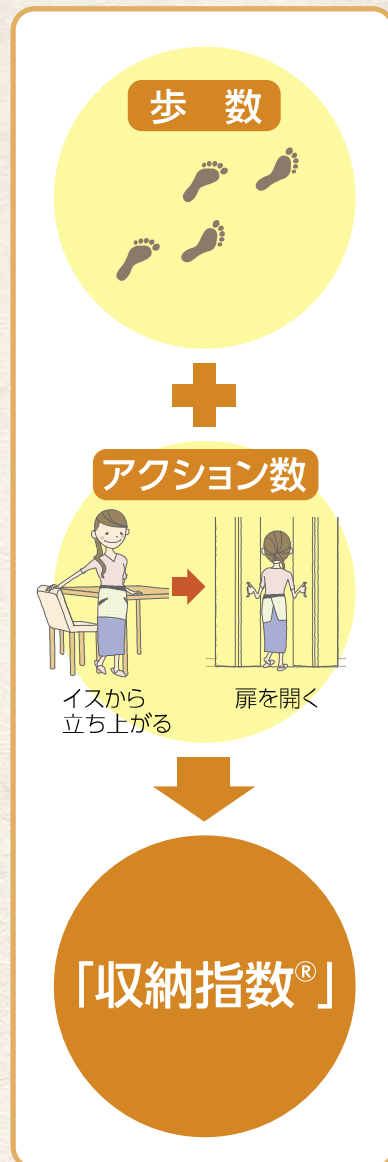
# ラクな収納は数値でわかる 「収納指数<sup>®</sup>」

## 「収納指数<sup>®</sup>」ってどんな数値？

わたしたちがモノを取り出す時、どんな動きをしているのでしょうか？

例えば掃除機を使いたい時、それを収納している場所まで**歩き**そして、**扉を開く**、などの動作があります。それらの動きを「歩数」と「アクション数」として数え、両方を足した数値を「**収納指数<sup>®</sup>**」とします。

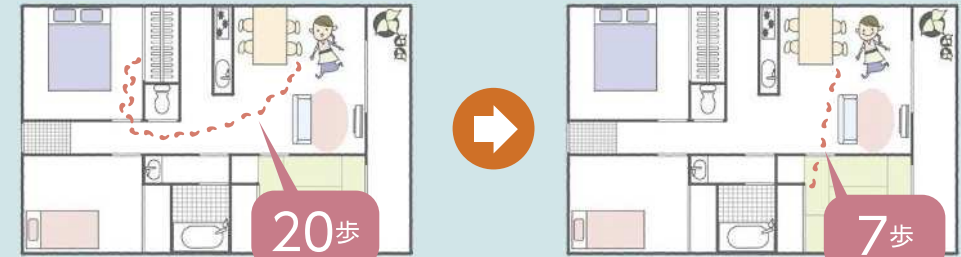
掃除機の前になにかがあればそれを退かすというアクション数が増えます。つまり、「**収納指数<sup>®</sup>**」が多いほど出し入れが面倒で、少ないほどラクな収納となるのです。



※「歩数+アクション数=収納指数<sup>®</sup>」は飯田久恵考案の登録商標です。

## ココがポイント! 置き場所を変えて歩数を減らした例

その① アイロンの置き場所を、離れた洋室のクローゼットから使う場所のリビング近くに変えて、アイロンを取りに行く歩数を20歩から7歩にした例。



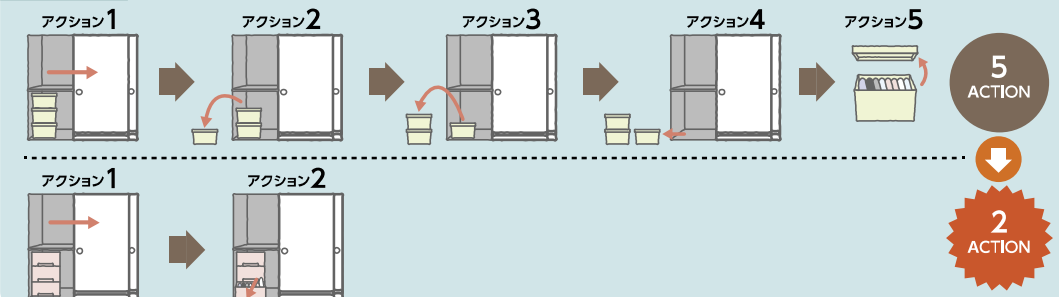
その② いくつかの部屋にあった服やバッグをひとつのクローゼットにまとめたら外出時の身支度の歩数が激減する。

身支度に必要なモノが分散していると歩数が多い



## ココがポイント! 入れものを替えてアクション数を減らした例

その① 押し入れに入れたフタ式の衣装ケースを引き出しに替え、ふすまを開ける、引き出しを引く、の2アクションで中の衣類を出せるようにした。



その② 整理ダンスに入れている服を、棚に入れ替えた。扉を開く1アクションで全部見えるようになったので、すべての服を活用できるようになった。

